

特集日食報告

1 サロス前の雪辱成らず

川上新吾（東京都三鷹市）

1991年7月11日午前7時30分(現地時刻)、ハワイ島ワイコロアの上空には星が瞬いていました。東の空には厚い雲、その彼方で月と太陽が重なり合っていました。皆既時間4分弱、それをはさんだ6分ほどの間のみ完全に雲に阻まれ、初めての皆既日食体験は終わりました…

それから1サロス(18年10日)、因縁の皆既日食を奄美大島で迎えることができました。観測地での皆既時間が3分34秒もあるため、1サロス前に果たせなかった観測に再挑戦することをもくろみました。コロナ輝線に合わせた530.3nmと637.4nmの干渉フィルタを使って撮像し、コロナの温度構造を調べようという計画です。

ツアー前には、簡単な分光器を使ったフィルタのチェックや、満月でのテスト撮影を行いました。日食前日にもホテルの通路から太陽を撮影し、フォーカスなどの確認を行いました。

笠利中学校校庭での本番、雲が流れる中で予定通りにフラットを撮像したりダークデータを取ったりしながら、部分食の写真も雲の薄くなったチャンスを見計らって撮影しました。ところが途中より次第に雲が厚くなってきたため、当初の計画はあきらめて、とにかく記録を残すことに徹するように方針を変更。減光フィルタも途中からは不要になってしまうような状況で、皆既を迎えることになりました。

第二接触直前には空気もひんやりと感じられ、月の影があつという間に上空を覆って皆既が始まりました。カメラのファインダーで見ても、コロナらしきものは全く確認できませんが、露出を変えながらひたすら撮影を続けました。とはいいいながらも、皆既時間が長かったため、あたりを見回す余裕もありました。限界線が近い南の空が夕焼けのような感じだったこと、反対に北の空がずいぶん暗かったのが印象的でした。皆既が終わった後は日差しもなくなり、そのまま日食の終わりを迎えました。

雲を通してなのでコロナは写っていないと思っていましたが、画像処理の結果、それらしい姿がぼんやりと現れました(図1)。また息子がフィルムカメラで撮影した第二接触直前の写真には、ピンク色に見えるダイヤモンドリング(ルビーリング?)らしきものが写っていました(図2)。

このような次第で、1サロス前の雪辱を果たすことはできませんでしたが、皆既日食ならではの雰囲気は十分に感じとることができました。しかしな

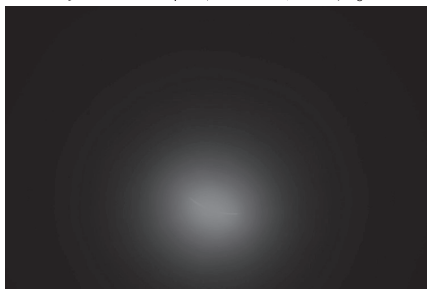
☆・1サロス前の雪辱成らず・☆

から「次こそは！」とまた思ってしまうのが日食のこわいところです。

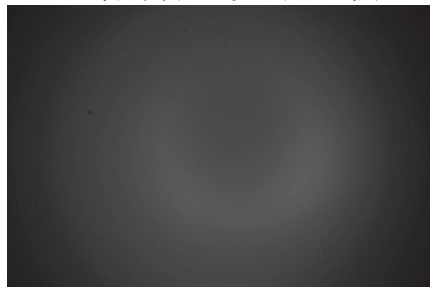
今回の日食は皆既帯に入ることをあきらめかけていたところ、黒河さんからお声かけをいただき奄美大島に行くことができました。また、日食当日は息子の誕生日でしたが、夕食の席では皆様が Happy birthday を唄って下さり感激しました。この場をお借りして改めてお礼申し上げます。



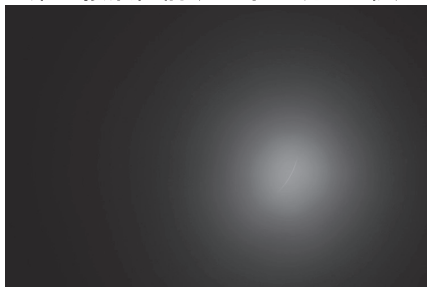
部分食(09時45分52秒)



第二接触直前(10時55分21秒)



皆既中(10時57分19秒)



第三接触直後(10時59分51秒)

図1 奄美大島・笠利中学校校庭での皆既日食の経過

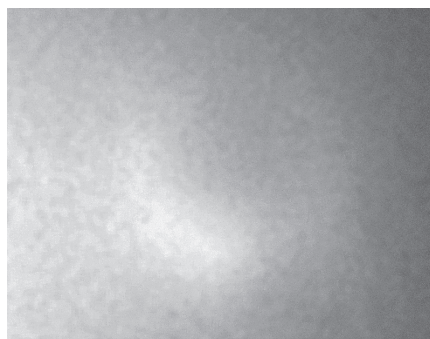


図2 第二接触(ルビーリング)

写真データ

図1 : タカハシ SKY90PZ
+エクステンダーQ1.6×
ペンタックス*istD(RAW)
(部分食は D6 フィルタ使用)

図2 : smc ペンタックス F☆
300mmF4.5
ペンタックス LX
フジプロビア 100
ミノルタ DiIMAGE ScanIII
(いずれも Photoshop LEにて処理)